



2025年6月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 6

一人ひとりのライフステージに寄り添い
生涯通じた健康づくりとつながりづくり



横浜YMCAでは、創立150周年となる2034年に向けた将来計画「VISION2034」を策定し、その実現に向けて歩みを進めています。この計画は、2034年に、どのような社会を目指すのかを見据え、持続可能な地域社会の実現を目指す長期ビジョンです。計画では、「子育て育ち」「生活のクオリティの向上」「ユースエンパワーメント」「社会に貢献の4つの領域を掲げ、今年度は第2期中期3か年計画の中間年として各領域に取り組みんでいます。今号ではその中の「生活のクオリティの向上」について考えていきます。

横浜YMCAでは、2021年4月から将来計画として「VISION2034」を策定し、横浜YMCA創立150周年を迎える2034年にどのような社会になっていきたいかを考え、そのための取り組みを進めています。2024年4月から2027年3月までを第2期中期計画として2年目を迎え、8領域16の重点項目を各事業・各館はじめてすべての活動で取り組んでいます。

高齢化が進む社会において、コロナ禍の影響で高齢者の外出頻度が減少し、室内で過ごす時間が増えたことで健康不安が増加傾向にあります。通常、フレイル(加齢による心身の活力低下)の発症率は



多世代の交流もできて地域清掃としての貢献とつながりを感じた鶴見川周辺の清掃を行ったボランティアの皆さん

約15%ですが、コロナ禍でフレイルを発症した高齢者は約23%に上昇したといわれています。YMCAが地域の居場所となることで高齢者の孤立を防ぎ、心身ともに元気な状態を保つことができるようになるためのスポーツや学びに特化した計画に重点を置き進めています。「生活のクオリティの向上」の領域では、私たちは今、急激な人口減少と、4人以上以上が高齢者という超高齢社会に直面しています。寿命は着実に延び、「人生100年時代」の到来も現実味を帯びてきました。一方で、人と人とのつながりは希薄になり、地域で支え合う力は弱まっています。認知症患者の増加、高齢者単身世帯の増加、高齢者が高齢者を介護する老老介護の増加などの課題も出てきています。これからの時代、一人ひとりが生活の質を向上させ「人生100年時代」を充実させて元気に活動できるように、生涯を通じて「健康づくり」「つながりづくり」をYMCAがサポートしていきます。

VISION2034 [FOR HEALTHY LIVING] 一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに生まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために



健康維持目指して
介護予防や認知症予防の運動

健康教育事業では、地域福祉事業との協働や市区町村、高齢者施設(ケアプラザ・デイサービスなど)、地域自主グループ(自治会など)からの委託を受け、指導者を派遣し、介護予防運動や、認知症予防のためのコグニサイズなどを行い、年間1,400回、延べ13,400人の参加がありました。横浜生麦地域ケアプラザでは、ラジオ体操に取り組み、運動と会話を楽しむ時間を設けています。身体機能の向上に取り組み、地域の高齢者が生き生きと過ごすためのきっかけづくりにつながっています。



学生の日本語の学びをサポート
ボランティアチューター

横浜YMCA学院専門学校(中区)では、日本語学科・国際情報ビジネス科の留学生に、日ごろから日本語の会話に慣れてもらおうと、チューターと呼ばれる中高年層の方々がボランティアとして、毎週1回(休暇期間などは除く)、放課後に一対一で、1時間程度日本語で会話をしています。日常生活でよく使う言葉や日本の文化、風習、季節の行事などを話題にしながら、日常会話表現の習得をサポートしています。チューターご希望の方は専門学校まで。



地域で高齢者の暮らしを支える
ちょこっとたすけ隊

一人暮らしの高齢者や老老介護世帯を対象に、介護保険のヘルパーでは対応できない草刈りや電球交換、換気扇掃除などをボランティアで請け負う「ちょこっとたすけ隊」の活動は、横浜市鶴見中央地域ケアプラザ(指定管理者)を中心に地域福祉事業が取り組んでいます。2024年度は70件の依頼があり、7人のボランティアが活動しました。地域で高齢者の暮らしを支え、顔の見える関係づくりや暮らしやすい地域づくりにつながっています。



中高年層の健康支える
「楽ジム」で簡単なトレーニング

横浜市鶴見中央地域ケアプラザ(指定管理者)では、2か月に1回の頻度で「楽(たの)ジム」(簡易的な健康器具や道具を使った体操)を行っています。スポーツクラブに通うことは少し抵抗があり、身近なところで気軽にできる運動のスペースがほしいという声に応えて始めました。運動することで転倒予防や自立した生活につながり、脳への血流促進(認知症予防)なども期待できます。地域のニーズに応じて中高年層の健康を支える取り組みとなります。



ホドス

4月20日の復活節に
礼拝説教をし、感謝
の気持ちで始まった
その週の火曜の夜
転んで顔に傷を負い
救命センターに救急
車で運ばれ、額を20
針も縫う「人生初の一つの経験」
をしまった▼額から流れ落ちる
血に周囲は驚き、救急車を呼ん
でくれました。当事者の私も少
し慌てましたが、救急車のサイ
レンの音を聞きながら、あそこ
れがいつも我が家のマンション
の下を走る救急車かなどと開き
直っていました▼到着した救急
センターのスタッフの私への優
しい励ましの言葉や振る舞いは、
もの忘れの激しい私でも忘れま
せん。今に至るまで注射は怖い
という弱虫の私ですが、特に部
分麻酔の注射は痛くて大変だど
思っていました。ところが若い
女性の医師が弱虫の私を励まし
ながら額を縫ってくれました▼
その医師の言葉を聞いてると
こんな余裕の思いすら浮んで来
たのです。連れ合いに先立たれ、
独りで暮らす神戸に住む神学校の
クラスメイトに電話しよう。と
私より少し年長の彼も少し前に
転んで顔が充血していたのに、
また夜中の電話に出て転んでし
まったのです。完治するには時
間がかかるようです▼「僕も仲
間になったよ、救急車に乗った
よ、頑張ろう」が翌朝の電話の
言葉です。救急センターのスタ
ッフの使命感が素晴らしかつ
たこの言葉が長く続きました▼
私が救急車で運ばれたと聞いた
我が孫たちが「ジージが死んだ
らババがかわいそう。バババ
と一緒に住む」と心配していた
ことを知り、妻も私もうれしく
なりました。(進)

YMCA NETWORK NEWS

横浜 ウエルネス指導者講習会 台湾Y参加

4月30日と5月1日に、横浜中央YMCAにて「全国YMCAウエルネス指導者資格認定講習会」横浜YMCA(主管)が行われ、68人の参加があった。台南YMCAから林慧娟氏(協進會館健康體育部幹事)をはじめ3名、東京YMCA、埼玉YMCAからのスタッフの参加もあった。



講習会では、座学と実技(アークティック水泳とジムナスティック体操)に分かれて、インストラクター・プログラムのディレクター・ディレクターの3種の資格取得に向けて行われた。アークティックでは初心者や中上級の指導法や安全管理、ポラントイア理解、プールでの実技も行われた。体育館では体操指導者資格取得に向けてマット、跳び箱、鉄棒、トランポリンなどの種目別の指導方法について学んだ。YMCAでは定期的に指導者の学びを進めている。

子どもたちの豊かな成長を支え 未来を育むためのサマーキャンプ

富士山YMCA・三浦YMCA2つの グローバル・エコ・ヴィレッジにて



横浜YMCAのキャンプは今年で101年を迎える。1923年に関東大震災の支援活動に使ったテントを再利用して、1924年に被災

Topics

140years of HISTORY 横浜YMCAと合体した鎌倉YMCA vol.15 教育活動・グループ活動盛んに

湘南の地に藤沢YMCAが設立されることと合わせて近隣にある鎌倉YMCAと共同で神奈川県下のYMCAを一つの広域化組織として統合する研究が行われていました。横浜と鎌倉のYMCAから4人ずつの委員が選出され研究が進められました。委員会からの答申案に基づいて協議を重ねた結果、合体して一つの組織になることを1978年3月に決定しました。鎌倉YMCAと横浜YMCAは1978年4月から、鎌倉YMCAは横浜YMCAの一つのランチとなりました。初代の運営委員長には前日本YMCA同盟総主事大和久泰太郎氏が選任されました。この年の1月に鎌倉YMCAの総主事であった安永和夫氏(横浜YMCA主事から移籍)が退職し、長澤勲主任主事が配属されました。

1945年後半の時期の鎌倉YMCAの活動は、鎌倉在住の理事の自宅を借りて少年たちの夏期英語講習などを行っていました。1951年6月には第1回鎌倉青少年問題懇談会が鎌倉教会祈祷室で開かれました。1954年には鎌倉の青少年のための活動が活発化したため、横浜YMCAからスタッフを派遣し応援しました。以降、鎌倉教会敷地内に仮の小会館を建設し、教育活動やグループ活動を行っていました。その間、幾多の消長の末、1976年に創立20周年を迎えた2年後に横浜YMCAと合体し、1981年に30周年を迎え鎌倉商工会議所にて記念式典を行いました。



▲鎌倉教会内にあった当時の鎌倉YMCA(1950年代)



▲自然と触れ合い仲間とともに過ごすキャンプは一生の思い出に

した子どもたちを励ますキャンプを辻堂で行ったのが横浜YMCAのキャンプのはじめで、今も震災支援のためのキャンプ活動は行われている。自然の中で仲間とともに生活し、さまざまな体験を通して成長を願うキャンプを実施する。YMCAのキャンプは当初から、子どもたちの豊かな心を育み、いのちを輝かすことを願っている。キャンプではグループワークや体験学習を用いながら価値教育、安全教育、環境教育、グローバル教育を取り入れ子どもたちの成長を促すよう取り組んでいく。今夏も8月に2つのグローバル・エコ・ヴィレッジにてキャンプを行う。

富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは、「はじめてキャンプ1」(年少から年長/草原遊び・水遊び・キャンプファイヤー)、「はじめてキャンプ2」(小学1年生から3年生)のほか、小学1年生から6年生を対象とした富士山の自然を楽しむ「ネイチャー」(川遊び・ニジマスつかみ取り)、「アウトドア」(テント泊・木登り体験)、「アドベンチャー」(ハイキング・アウトドアクッキング)の3種のキャンプを行う。同月に、三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは「フアンタジー」(年少から年長/シーカヤック・磯遊びなど)、「サイド」(小学1年生から6年生/磯遊び・シーカヤック・スノーケリングなど)、「シマン」(小学3年生から中学3年生/磯の観察・シーカヤック



▲海のスポーツにもチャレンジ

ウォーターセーフティーキャンペーン 6月15日(日)に着衣泳体験



▲いのちを守る取り組み着衣泳体験を行う子どもたち

横浜YMCAでは、全国のYMCAとともに6月1日から「ウォーターセーフティーキャンペーン」に取り組んでいく。

この取り組みは、水難事故から子どもたちのいのちを守り、子どもたちの水辺での豊かな経験が「いのち」を育むことを推進しようという行われ、昨年は7千327人が参加した。警察庁の発表によると昨年7月から8月(夏期)の水難事故は453件、水難者数は601人、うち死者・行方不明者は24人と報告されている。そこで「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、6月15日

(日)に、ウォーターセーフティーデーとして「着衣泳」の体験を全国のYMCAで取り組む。横浜YMCAの着衣泳体験は昨年から大人が一人で参加でき、子どもでも参加でき、服を着たまま水の中に落ちた際の行動の仕方や溺れている人を見つけた際の行動を学ぶ。また横浜北YMCAでは「25mチャレンジ」も実施し、溺れた際に自分のいのちを自分で守ることができるよう、支持物を使うことや自力で泳ぐ技術を身に付ける。いのちを守る行動などをまとめたハンドブックは小学校などに配布する。

この取り組みは、水難事故から子どもたちのいのちを守り、子どもたちの水辺での豊かな経験が「いのち」を育むことを推進しようという行われ、昨年は7千327人が参加した。警察庁の発表によると昨年7月から8月(夏期)の水難事故は453件、水難者数は601人、うち死者・行方不明者は24人と報告されている。そこで「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、6月15日

(日)に、ウォーターセーフティーデーとして「着衣泳」の体験を全国のYMCAで取り組む。横浜YMCAの着衣泳体験は昨年から大人が一人で参加でき、子どもでも参加でき、服を着たまま水の中に落ちた際の行動の仕方や溺れている人を見つけた際の行動を学ぶ。また横浜北YMCAでは「25mチャレンジ」も実施し、溺れた際に自分のいのちを自分で守ることができるよう、支持物を使うことや自力で泳ぐ技術を身に付ける。いのちを守る行動などをまとめたハンドブックは小学校などに配布する。

今年で101年を迎える。1923年に関東大震災の支援活動に使ったテントを再利用して、1924年に被災した子どもたちを励ますキャンプを辻堂で行ったのが横浜YMCAのキャンプのはじめで、今も震災支援のためのキャンプ活動は行われている。自然の中で仲間とともに生活し、さまざまな体験を通して成長を願うキャンプを実施する。YMCAのキャンプは当初から、子どもたちの豊かな心を育み、いのちを輝かすことを願っている。キャンプではグループワークや体験学習を用いながら価値教育、安全教育、環境教育、グローバル教育を取り入れ子どもたちの成長を促すよう取り組んでいく。今夏も8月に2つのグローバル・エコ・ヴィレッジにてキャンプを行う。

この取り組みは、水難事故から子どもたちのいのちを守り、子どもたちの水辺での豊かな経験が「いのち」を育むことを推進しようという行われ、昨年は7千327人が参加した。警察庁の発表によると昨年7月から8月(夏期)の水難事故は453件、水難者数は601人、うち死者・行方不明者は24人と報告されている。そこで「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、6月15日

(日)に、ウォーターセーフティーデーとして「着衣泳」の体験を全国のYMCAで取り組む。横浜YMCAの着衣泳体験は昨年から大人が一人で参加でき、子どもでも参加でき、服を着たまま水の中に落ちた際の行動の仕方や溺れている人を見つけた際の行動を学ぶ。また横浜北YMCAでは「25mチャレンジ」も実施し、溺れた際に自分のいのちを自分で守ることができるよう、支持物を使うことや自力で泳ぐ技術を身に付ける。いのちを守る行動などをまとめたハンドブックは小学校などに配布する。

ポジティブネットをひろげよう ~今月のよくなる一歩~



♪子育てランド♪ 新聞・チラシあそび

6月は梅雨の季節で雨が降る日が多くなります。梅雨の時期の部屋遊びとして「新聞紙・チラシあそび」を紹介します。読み終わった新聞紙やチラシはぐちゃぐちゃにしても破っても気にならないものです。子どもたちが自由に丸めたり、破いたり好きなように使えます。大人は、ちぎり方や丸め方の仕方を見せながら一緒に楽しみましょう。細かくちぎったものは紙吹雪にしたり、丸めたものはボールに(周りに気をつけて遊びましょう)、細く丸めて輪にしたものは車のハンドルに見立てて運転ごっこ、目と口の部分を切り開いてお面、穴の大きさによっては首からかぶって洋服にしたり、遊び方は無限に広がります。子どもたちは最初、新聞紙やチラシを握って引きちぎろうとしますが、だんだん、指先を使ってちぎるようになります。丸めることやちぎるという動作は手指の巧緻性(手先の器用さ)を高めることにもつながります。はさみが使えるようになったら、はさみで切った作品を作っても楽しいでしょう。(YMCAとつか保育園 主任 後藤基子)



横浜 美しい港町横浜を つくる会・一斉清掃

横浜YMCAでは、地域活動の一環として、YMCA周辺の清掃に定期的に取り組んでいる。



横浜を世界一きれいな港町にしよう、世界に誇れる国際都市横浜の形成に寄与しようという思いで、取り組むNPO法人美しい港町横浜をつくる会(会長加藤和之氏・理事佐竹博氏)が主催する「横浜YMCA総会」は、4月15日(日)の第29回一斉清掃が行われ、地域の企業とともに取り組んだ。横浜YMCAからは20名が参加し、さくら通り、バススターズ通り、常盤町1〜6丁目周辺の空き缶・瓶、タバコの吸い殻などのゴミ拾いを行った。

上海・光州・横浜 三都市YMCA会議・ユースキャンプを横浜で8月に開催 「ユースのメンタルヘルス」をテーマに 基調講演やワークショップを行う



▲三都市YMCA会議のはじまり・横浜で開催された上海・光州・横浜3YMCA協議会(1989年3月横浜で)

8月に行われる三都市YMCA会議は、横浜YMCAが主催となり横浜にて開催する。開催にあたりスタッフによる準備委員会が開かれ、準備を進めている。

三都市YMCA会議のはじまりは、1984年の姉妹都市青年会議として上海、光州、

横浜のYMCAの青年交流が行われたことがきっかけとなる。当時は中国と韓国の国交がなく、上海と光州の相互交流は禁止されていた。1988年10月の横浜YMCA理事・常議員会において上海、光州、横浜三都市YMCA会議を、横浜博覧会を機会に実現しようという提案があり、光州YMCA、上海YMCAもこの提案を快諾した。これを受けて、1989年3月25日から27日、横浜博覧会を光州、上海の代表が見学する機会を設け、その際に光州・上海・横浜三YMCA協議会が横浜で開催された。

茂木雄国際事業委員長他3人が参加した。会議の席上で、国という枠を超えて、東アジアの3つのYMCAが相互に協力していくことを確認し、この協議会を「三都市YMCA会議」として2年に一度継続して開催することを決めた。以降、3YMCAが協力して、その時代におけるYMCAの取り組みや課題について情報交換と協議を重ねている。

この取り組みにより、光州と横浜YMCAのサッカー交流が3YMCA交流に発展、横浜YMCAのタイ・バンコクYMCAへの青年派遣に光州・上海が合同参加、光州YMCAとの発達障がい児のトライアングルクラス相互交流及び短期・長期スタッフ相互研修派遣、上海YMCAとの文化交流や高齢者介護人材養成事業の協働などを行っている。

横浜YMCA創立125周年記念礼拝の行われた横浜海岸教会の125回の鐘の音を聞いた三都市のYMCAは、子どもたちの心に平和の鐘の音を響かせたいと互いに平和の鐘(ピースベル)を贈り合い、それぞれに設置した。今年度の三都市YMCA会議・ユースキャンプのテーマは「ユースのメンタルヘルス」としている。三都市のYMCAのユースにとって、いじめ、競争社会、出生率の低下、うつ、若年層の自殺などを共通する課題として捉え、三都市YMCA会議とユースキャンプにてそれぞれ基調講演やワークショップが行われる。三都市YMCA会議は8月26日(火)から29日(金)までナビオス横浜にて開催し、ユースキャンプは三都市YMCA会議に先行し25日(月)から富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジで行われ、27日から三都市会議に合流する。

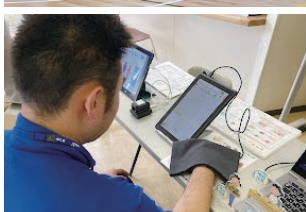
家族で楽しく運動するきっかけづくり ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン

横浜YMCAでは、子どもや家族が健康づくりについて考え、生活の改善や運動を習慣化し継続するきっかけづくりとして「横浜YMCAヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」を開催する。

このうち、4月29日には、「ヘルシーキッズデー」を開催し、



▲上海で開催された三都市YMCA会議(2023年)



▲上)親子でバスケットボール体験(横浜中央YMCA) ▲下)明治安田生命保険相互会社の協力により身体の状態を測定(YMCA山手台センター)

また、明治安田生命保険相互会社(横浜YMCA賛助会)の協力によりベジチエック、脳年齢や血管年齢、握力など自分の身体の状態を測定し、健康状態や生活習慣に引き合い健康について考える機会となった。

また、明治安田生命保険相互会社(横浜YMCA賛助会)の協力によりベジチエック、脳年齢や血管年齢、握力など自分の身体の状態を測定し、健康状態や生活習慣に引き合い健康について考える機会となった。

地元の集会で開会礼拝を担当した牧師が、教会の働きから3つを説明されました。①聖書に基づきしっかりと立つ。聖書を真剣に学び、生き方の基盤とする。②愛の業に励む。人権意識を持ち、弱くされている人のための救済・解放に励む。③若い人たちに委ねていく。その時の若い人たちの心のよりどころとなり、集う若い人たちに継承を委ねる。

で、青年が集い、自主的な活動をしている団体が、法人という枠を超えて常に新しい形態で生まれています。①だけに取り組んでいては、クリスチャン以外の人たちが、青年が集い、自主的な活動をしている団体が、法人という枠を超えて常に新しい形態で生まれています。①だけに取り組んでいては、クリスチャン以外の人たちが、

ひとかき

三位一体

総主事 佐竹 博

うか。掲げている使命に②と③は備わっています。しかし②・③を専門にしている有名な団体からは差をあげられていないでしょうか。私たちが、隣人のために仕える働きをする団体で、ユースエンパワーメントに取り組んでいる団体だ、と具体的な行動を伴いつつ、社会に発信していく必要があります。そして聖書に学び、イエス・キリストの生き方に基づいて行動し、キリストの香りを放ち続けていくことが本当にできたなら、3つの働きを同時にできたYMCAは、多くの人びととともに150年も200年も社会・地域・人びとに必要とされるYMCAであり続けられると思うのです。

FLASH NEWS

横浜YMCA・横浜YWCA合同イースター早天礼拝が4月20日に横浜中央YMCAチャペルにて行われ29人がイエス・キリストの復活を共に祝った。礼拝はメンセンディークジェフリー牧師(桜美林大学准教授 チャブレン・日本基督教団協力宣教師)から「わたしは復活であり、命である」を題にメッセージがあった。礼拝後に近況報告を行った後、有志が横浜外国人墓地に眠るYWCA・YMCAにゆかりのある方の墓参を行った。



4月に行われた横浜YMCA理事・常議員会にてミャンマーYMCA同盟 Maung Maung Win 総主事からオンラインでミャンマーの現状を聞いた。報告によると、3月28日に発生したマグニチュード7.7の地震により、マンダレー、ネピドー、サガイン、シャン州の南東部が大きな被害を受けた。ミャンマーYMCAでは、被災地での緊急支援やメンタルヘルス支援、食品、飲料水などの非常食を積極的に配布していると報告があった。最後に世界YMCAとアジア太平洋YMCA同盟(APAY)、日本のYMCAの募金活動と支援活動に感謝の言葉を述べた。

ワイズ 各ワイズの素晴らしい活動 コーナー 横浜つるみワイズメンズクラブ

2024年7月から2025年6月まで私は、湘南・沖繩部の部長職に就いたため、横浜つるみクラブのプログラムを手伝うことができなくなりました。その半面、他のクラブに行く機会が多くあり、その状況を知ることができ、勉強になりました。厚木ワイズメンズクラブのハンドバル・ヘルマンハーブチャリティーコンサートを開催された鎌倉ワイズメンズクラブ、いずれも楽しい公式訪問のひとつでした。他のワイズメンズクラブも、特色を活かし素晴らしい活動をしていることが分かりました。「共に支え合い・共に喜びを」は2024年度の主題でした。横浜YMCA創立140周年記念礼拝を始め多くのイベントがありました。横浜つるみワイズメンズクラブの多くのメンバーが参加してくれました。感謝です。(横浜つるみワイズメンズクラブ 久保勝昭)

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■横浜YMCAグローバルセミナー

日時 6月7日(土)午後1時~午後2時30分
 オンライン(Zoom)
 テーマ 難民を歓迎できる社会に~アルペナンみんセンターの取り組み~
 講師 有川憲治(アルペナンみんセンター事務局長)
 参加費 無料
 定員 100人
 申込み QRコードからお申し込みください。
 主催 横浜YMCA国際事業委員会
 ○6月20日は難民への理解を深める世界難民の日です。難民についてともに考えてみませんか。



■イングリッシュセミナー

日時 6月20日(金)午前10時~正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ My Home—Miami, and Japan
 ゲスト Andy Vegaさん(アメリカ)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 ○アンディさんがご出身のマイアミについて文化や暮らしなどを交えて故郷の魅力を話します。

イベント

■ウォーターセーフティーデイ

日時 6月15日(日)時間は各YMCAにてご確認ください
 会場 横浜中央・横浜北・藤沢・川崎・湘南とつか・山手台
 テーマ いのちを守る講習会~水の事故からいのちを守ろう~
 内容 着衣泳
 参加費 無料
 申込み 各YMCAまたはHPにてお申込みください。
 ○6月1日からはじまるウォーターセーフティーキャンペーンの一環として開催します。夏を前に水の事故に備え、いのちを守るための取り組みを一緒にしてみませんか。

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 6月12日(木)午前10時30分~
 会場 湘南とつかYMCA 4階404教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣牧師(横浜戸塚バプテスト教会)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA
 Tel 045-864-4990
 ymsports@yokohamaymca.org

カルチャー

■うたごえ広場

日時 6月17日(火) 午後2時~4時
 対象 大人の方などでも
 会場 湘南とつかYMCA 1階ホール
 参加費 500円。申込不要。初回の方は当日申込書の記入をお願いします。

子育て支援

■はじめまして幼稚園~第9回中区幼稚園説明会~

日時 6月9日(月)午前10時~11時20分
 会場 横浜市技能文化会館2階多目的ホール
 対象 中区の幼稚園に入園を考えている方
 問合せ 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 申込み Tel 045-663-9715

■プレママ・プレパパDay

日時 6月24日(火)午前10時~11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 先輩ママ・パパとおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 Tel 045-780-3205

オープン・学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日時 6月7日(土)午前10時~午後2時~、17日(火)午後6時~、6月21日(土)午前10時~午後2時~
 内容 AO入試・高等教育無償化説明会 ※6月7日(土)は体験授業を行います。
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441



■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 【学校・入試説明会】6月7日(土)、14日(土)午前10時30分~/午後2時~ 【説明会&サッカー説明会】6月21日(土)午前10時~ 【説明会&トレーニング体験】6月21日(土)午後2時~
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990



■横浜YMCA学院専門学校 国際情ビジネス学科

日時 6月7日、21日(土)午前10時~正午 【オンライン説明会】6月10日・24日(火)午後2時~・19日(木)午前10時~
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-661-0080



gakuin-ji@yokohamaymca.org
 ご都合が合わない場合はご相談ください。
 ○各専門学校では個別の相談や見学も付けています。

絵とメッセージで作品づくり みどりクラブ

5月5日に、第28回みどりクラブの活動を十日市場地域ケアプラザで行いました。連休中のため子どもの参加もあり、大きな模造紙に絵の具やクレヨンで絵やメッセージを書いて、皆で一つの作品を完成させました。また、皆が具材を持ち寄ってウクライナ料理ヴァレニキ作りを行いました。それぞれの家庭の味を紹介し合い、語り合いながら料理をする様子は、大きな家族のような温かさがあふれ、皆の笑顔があふれ、楽しいひとときを過ごしました。



すべての子どもに公平な機会を 子ども支援基金 (BAPY)

横浜YMCA子ども支援基金(BAPY)は、横浜YMCAの諸活動に経済的な理由等により、参加することができない子どもたち(青少年)に費用の一部または全額を援助するものです。このBAPYとは"Be A Partner of the Youth"の頭文字で「子どもたちのパートナーになろう」という意味が込められています。この基金は、多くの方の寄附により支えられています。基金の申請、ご協力はQRコードまたはお近くのYMCAにお問合せください。夏季プログラム基金申請受付は6月6日(金)まで。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。



光州YMCAサッカーチームと健闘をたたく国際フェスティバル(1984年8月)



2022年2月に、ロシアによる侵襲から逃れるため二人の幼い娘とウクライナから避難しました。すべてを失い、たどり着いた慣れない異国で、いち早く支援の手を差し伸べてくれた団体の一つが横浜YMCAでした。経済的支援に加え、安全や心のつながり、子どもたちの成長と回復の場を提供してくれました。YMCAで出会った日本人の人は、私たちが温かく支え、支援をしてくれました。

娘たちは異国で友だちができ、信頼することや困った時に助けてもらえ、支え合えることを学ぶ機会が与えられました。そしてそのことを通して、困難な中であっても尊厳を持つて生きる価値を感じるようになりました。私もYMCAの支援によって人生の意味を見失わず、世界とつながっていることを感じられました。

子どもたちはYMCAのプログラムに参加することで、本来あるべき当たり前の幸せな子ども時代を取り戻し、多様な活動を通し、学ぶ意欲や他者との交流を深めることができました。他者への信頼を取り戻し、逆境の中におかれても人は成長できると実感しています。YMCAは子どもたちの

でも私たちの可能性を広げる機会を与えてくれました。

ウクライナは私の故郷、尊厳と団結の国です。今は困難な状況にありますが、必ず国際社会の発展に寄与できる時がくると信じています。それが復興の象徴となります。

YMCAは私にとって「不確実性」の海に浮かぶ人間性の「島」であり、実践的な支援と人と人とのつながりがある場所です。混乱する世界で人間性を守るため、YMCAのように若者が共感や対話を学び、共に未来を創る場が重要です。

日本での避難生活も3年が経ち、社会からの支援にも変化が生じてきています。私たちは自分たちでこの戦争の経験を選んだわけではありませんが、大変なこともあります。子どもたちも私も孤独ではありません。戦争から逃れるために避難を余儀なくされたウクライナ人のためのプログラムを通じて、子どもたちの成長の支援、心の回復、魂の癒しの機会があると感じています。私たちの生きる基盤が崩れかけていた時に、頼りになる力強い支援の伴走者となってくれたYMCAに感謝します。

My Y Story

185

横浜YMCA年間クラス・季節キャンプ参加の保護者 **ナタリアムリヤフカさん**

困難な中であっても尊厳をもって生きる価値を感じた



▲みどりクラブの皆さんと(後列右から4人目 2025年5月)